

大泉
庄内
御
巡
見
紀
行

天和二年壬戌八月十一日羽州唐屋と御城下の
西南へ出八日町と通りるる處に唐屋村なる金峯山
右より舟倉村走より山道ふりて湯田川村湯屋
体長福寺寺領
百餘年なる觀世音弘法大師開基
之由に神佛慈悲之徳之幅もく三子神表
具して掛おとす弘法大師筆絵像
ありし上ノ山は觀音堂より出羽一玉の銀表の
大本を所は湯坪七ツを町中より流川を川端
手前の湯とて白の守をかりてふせり内より

湯之紀ある支の板津より大日堂あり弘法大師
之化し由基の墓をかねて武大をすありと云れと云
所田川村より西へ是の山より南へ各木の梅樹と
古木大樹よりして根方の一出よりをへ何程と云較
と云らば支より矢張山八幡宮社を主計と云
八幡寺希義家公の庵あり此山義家公の
陳五路より山より向の石山より武衛家衛陳
場より由基より右武人の馬籠ありけり又丁て
五の所田川村石堂山より希義家衛墓あり

あり所回川の村より回川籠と云山を義家と
武衛家衛家と云所老上ノ山ノ老上ノ家下
山ノ由まかると鬼板とて大峰を宅と云平
丁餘峰の頂より鬼の峰のそとを義家あり
下して若代村あり云に里七十八月十日義
村泊泊 國田九卷の山系信義清佐

一 十三日若代村にあり云は信義あり云と檢せし所
ありてありと坂とて大峰と云とあり山平あり
山坂の難所ありと云と信義とて温海河村と云

に月三火事出来本年新餘材切をきりもふ残
燒失はた支のきりも程よく木ノ修村是の拾九條と
尸川走筋と十九度越尸川の廣と二千石餘或
十六七石程を左右よる山谷合を以てあらはし
と濁りも山申すも夕立雨よあひつゝ是れ九川の
五増ん今少一浩あつゝ一越りもあつゝ後
程のあつゝ十九條の内川十と越く山は因は
とてそそ昔も地もあつゝは八月十二日山は清治
より山はさし二里すゝ下

一 十三日小國を經たつて津波をたがふ大風志
まうりる氷降雷方よりありて今も色入落
かたうと阿や志む内山山岳峰（おかしき）味難
ありて頂より杖より大なるまの山伸とてまをりて
又時をりて標高より川を小鍋川とてまをりて
新小鍋宮をりて宮の十丁よりて小鍋峰
然後出羽の境をいも沢を素山、長サ西東南、
方越後北の方を内峰境目といはれ頂の各
流し次第日なると山を越た内峰の境を東

越後西の方の内領いも佐野と目も出ぬもの申よ
越後之内杜田酒田の海道を道とて言ふは谷の
いも天よりあまき平なる身を計境へ渡るは九里十
き丁とて越後の山と雲カサネりたるを蒲葺山の
跡よ大山とてあるまの清海り山溜村の右川
付とては川拾五津とて川を拾ふは越後
たりの雷志まきりにありて雨の降る藤と流ら
し〜左大山よ〜て馬よのられたる笠茶
おと石叶歩みよ〜細き繩よとゆく

されハ二里の道を經つるに、出くハ山麓は着
徑の難所ハ麓ヲ冥沛谷休亭ニ位置スル
出羽越後の境ハ麓ヲ冥村南ニつゞきあり義
經記云々念珠ヲ穿スルニ此ハ麓ヲ冥ト云
幸海瑞塚ト云々岩ヲ麓ヲ喰ぬキ洞トあり
を義經通りト云々道あり出羽越後ト云々入
十丁餘海の西ハ瑞々ト云々越後の青田ト云々
武里ト云々二里ト云々ト云々麓ヲ冥村の向海中
弁財天立あり云々海の面傍ト云々ト云々水浦の

海一平んよ又も打言大風よと浪家とて
かましく冷言言は毎財天法巡見不計是
より磯修ひふ形撰師の家ありとて子田村大志
川村小岩川村住吉坂たいこ坂谷坂馬よのま
ぬ系之敷とあふにたよと山よとてたハ敷子
せうの海端あれた所とひや一物と押と陰と
そを修ひ形形先も心細き切通しと磯山
第のくまき難而とト修りぬとてり浪法橋を
赤偏り形よ湯温海村十二日セツと此に湯着

湯治名湯五湯産家へてててて涌出る湯口
よていゆておあんとするといふ

一 十字湯温海村と云つ時温温海村を新ふ
塩を稀電にりるを皆去かすといふやうに或許入の
塩或拾俵り出るよ〜家も〜か海下ありし出
まよりり〜は桶師の家ありてよある〜書評鈴
飛々板部拾ふ中が〜時へ電て向よ道る〜海を
のそ〜〜〜〜拾丁余さして獲き〜を新ふ
塩表石〜〜〜獲の塩表を指か〜〜〜獲の岩

五拾五餘著輝よまき光りて海の伸よまき
文斗の伸よりい百五の程とありまき光る者い
け岩の上ふまありしと西の老ま彼よりん是ま
内よ鬼の掛橋とて山の海に掛橋と掛り山の
岩生まき分りて自體とそま橋のまき言サ
ま文斗まきおるま九たまけ岩橋の下と往
還とすまの義經の馬系ふる場海端に岩平
よりて的場のまきま拾ま七るまきまき中
馬たらいあり馬ひやすありまき大波渡村小

波渡村と云ふさまは、お汐法師の歌り

山細のそいのころききお存家福（福丸）

まよふおれは、いんたふく

何と申らばおれは、いんたふくおれは、いんたふく

と云われは、岩のさかぬおれは、いんたふく

油昔昔のいんたふくおれは、いんたふく

あつ岩おれは、いんたふくおれは、いんたふく

晴き山外と云ふさまは、お汐法師の歌り

まよふおれは、いんたふくおれは、いんたふく

十字の八時清著湯澤海より八百里三丁

一 十日の二熊村と湯澤宮ありと葉山神社福

湯巡具 神皇治教古史

本尊薬師也サキ天武す古佛之能不知

前観音 左右 十二神を

義經文治武年二月山國落の時伊弉日湯巡具

より通夜を二一西より山名言サ二丁汁砒山

より一層風とまゝなることあり等々山とお向て

ありけり是丁汁もあり層をを歎

一 國司の遺蹟として東御山と西御山との間に
北真の戸跡あり

一 氣比大社殿 二層ニ或拾石針の跡遺るを本宮
觀音のくくこ社あり 靈寶のくく

一 釵をたすあり伝ふ

一 板部より義經のおいも戸跡あり

一 十六の善神掛物 鳥羽院の御震筆より由
箱地金泥あり

一 福壽掛物 織ありて申より多紙形あり福壽

と申しものもくもゆより長命富貴あり

一 氣比大持現沖舟洗の池とて山沖あり昔は
ありていり日懸よかき事か山
申あつたよ本の記一巻あり一海軍の
池は七用あり飛礮ありありて大風
大雨降る時は水より水より村中の村
行貝村大谷村上山村湯領と中山村の
出逢ふと指すはるる道より山よ
とらふ村大の村沖領も昔は酒井家の
領あり由沼井領あり分地と後宿領あり

子世在在修徳ありはつるに所領の如く大山崎
加藤氏にありて大寺をとりしとたりし加藤の社
比良尾寺ありて徳を柱に置き支より比良
寺通し明石山龍宮寺中尊正統観音本像あり
由如佛開帳ありて慈母夫人の御容ありし
貞安元年より高永朝臣武友を憐れむとて
浦中より佛ありて海邊をとりて子音日養
大佛観音を建立す明石の東北加藤の町
を過りて海邊より出たりて海右の山岩を修り

虎豹のまゝに... かん... 野とひや...
を祓祓の祓祓を祓祓のまゝに... 毒蛇は
香の紫より... 何れも... 舞言...
向う... 海と... 後... 止... 十... 七...
か... 村... 海... 村... 何... 里... 一...
今... 月... 高... 屋... 裏... 三...
産... 海... の... 面... 又... 産... 京... 大...
綱... 大... 綱... 出... 蘇... 大...
何... 月...

拾出より

一
土の石の形は、又た石の形と載る大の村
爲る所、自二下、馬所、松尾、明神石、
多のあり、神あり、開帳は、不及、大の石、
多のあり、寺あり、湯の湯村と云、湯
あり、石の形、龍燈と云、石の形、

石の形、湯の湯村、
石の形、石の形、
石の形、石の形、

色紅や
白

流中村湯釜

流中村湯釜

流中村湯釜

流中村湯釜

流中村湯釜

流中村湯釜

流中村湯釜

道徳流 崎の海に舟を浮かべたりと云ふ

別名 舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

舟の海に舟を浮かべたりと云ふ

をふりぬ〜沖野宮元之制札を夫の酒田此
所へ七つ時よ湯の者所たるの道に根籠津素出らる
傳馬所と松平為素法途出戸一礼と云ふ所
此宿院屋敷左馬の湯を候、同所か今屋敷助比然
西へ湯の者所後村の酒田を九里

一 十七日河内湯巡道なる所、湯巡見寺町通

安祥寺

一向宗陸樓五

常福寺

一向宗口内